

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
1	入門シリーズ (作業管理概論) 300-01 (01-02)	藤 木 通 弘	講義 産業医実務研修センター 50名	6/ 1 (月) 1/ 5 (火)	コマ数	入門編として、作業管理とは何か、またどのような業務を行うのかについて紹介する。まず、我が国の業務上疾病の発生について、経年的な推移と疾病の原因を概観する。次に作業管理の位置付けについて、労働衛生の目標との関連、企業における諸管理との関連について学ぶ。また、作業管理と関連の深い人間工学について概説する。作業分析の方法、労働衛生保護具の選定と管理の方法など、そして法規や通達に規定されている作業管理の事例などについても紹介する。また、作業管理部の実務講座のそれぞれの内容についても一部紹介する。	
					0		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 1.5		
2	安全管理の実際 300-02 (01-02)	弘 中 知 行 小 林 和 也	講義 産業医実務研修センター 50名	6/11 (木) 2/19 (金)	コマ数	企業における安全衛生管理は、安全管理、職場環境管理、健康管理が三位一体となって推進されている。産業医は、健康管理や職場環境管理等 (労働安全衛生規則第14条に定める職務) の他に、安全衛生パトロールへの参加 (同規則第15条)、安全衛生委員会への出席 (労働安全衛生法第19条) や、法に定められていない所でも、災害発生時の救急対応やその教育、また、ヒューマンエラーによる労働災害を防止するため心理学的側面からの一助を求められるなど、安全管理との関わりを持たざるを得ない。本講義では、鉄鋼会社の事例により、労働災害の現状及び企業における安全管理の基本 (労働安全衛生マネジメントシステム、リスクアセスメント活動、社員の安全意識向上やルール遵守のための躰活動、作業請負会社と連携した安全衛生活動など) について学習し、産業医の立場から安全管理に対する指導的な発言ができる力を獲得することを目指す。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 1.5		
3	ヒューマンエラー 300-03 (01-02)	庄 司 卓 郎	講義 産業医実務研修センター 50名	7/27 (月) 2/12 (金)	コマ数	近年、作業現場において、ヒューマンエラーや不安全行動と関連した労働災害の発生が多く発生している。企業はヒューマンエラーを問題視し、その防止に頭を悩ませているが、なかなか減少しないのが現状である。事故や災害の分析では、ヒューマンエラーや不安全行動が“原因”として扱われることもあるが、実際にはヒューマンエラーや不安全行動が発生する背景には作業の問題、組織・管理の問題をはじめとして、さまざまな要因が存在する。そして、その防止にあたっては、作業設備の改善や管理・監督の強化などの現場レベルの対策だけでなく、作業員の安全意識の高揚や自主的な安全対策への参加など組織全体の安全文化の醸成が重要である。本講義では、ヒューマンエラーや不安全行動の誘発要因や防止対策の検討を行うとともに、分析方法を体験する。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 1.5		
4	リスク認知と安全意識 300-04 (01-02)	庄 司 卓 郎	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	6/ 3 (水) 3/ 8 (月)	コマ数	リスクアセスメントでは、危険性の検出と特定、危険性の評価・見積もりを行う。一般に人が危険を認識し評価する過程 (リスク認知) にはバイアスが存在することが知られている。そのため、多くの場合人は危険を過小評価してしまう。このことが危険軽視、油断、さらには不安全行動につながることも多い。作業員の安全意識高揚のために、安全文化の醸成をはじめとしたさまざまな施策が実施されてきた。近年では行動経済学的手法を用いた安全行動への誘導も試みられている。本講義では、人のリスク認知の性質を学び、安全意識を高揚させ安全行動へと誘導する方法について考える。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 1.5		

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
5	人間工学チェックリスト 300-05 (01-02)	伊藤 昭 好	学内実習 産業医実務研修センター 25名	7/17 (金) 1/15 (金)	コマ数	1. 人間工学チェックリストとは何か： 対策選択型アクションチェックリストの典型である人間工学チェックリストの構成と対象領域について概説する。従来から広く使われている点検型チェックリストとの相違点について理解する。 2. 人間工学チェックリストをどう使うか： 人間工学チェックリストを利用した職場改善実践やリスクアセスメントの事例をもとにして具体的な使用法を紹介する。潜在リスクの洗い出しに役立つことから、リスクアセスメントを実施する人材養成に活用できる点や、職場改善に構成員全員の参加を促す効果がある点を理解する。 3. 人間工学チェックリストをどう作るか： 対象とする職場に適した人間工学チェックリストの作成法について概説する。作業場を撮影した映像を題材にして、実際にチェックリストを作成・試用するグループワークを通じて理解を深める。	
					2		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし 第2クール 実地 3		
6	作業姿勢の評価 300-06 (01-02)	山田 晋 平	学内実習 産業医実務研修センター 25名	7/30 (木) 2/17 (水)	コマ数	本実習においては、OWAS法をはじめとする各種作業姿勢評価法について、その基本的考え方および職場におけるその活用法を習得することを目的とする。最初に作業姿勢の評価についての基礎的な知識、およびその活用法について講義形式で習得し、その後、実習形式でOWAS法およびRULA法の使い方を習得する。	
					2		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし 第2クール 実地 3		
7	職場における腰痛対策の実践 300-07 (01-02)	泉 博 之	講義 産業医実務研修センター 25名	7/15 (水) 2/16 (火)	コマ数	腰痛は、職場において訴えの多い症状であるが、その対策は困難である。その理由として、腰痛発症の原因が多岐に渡り、単一の原因ではなくそれらの組み合わせによる場合が多いため、発症要因を正しく理解して対策を行う必要があるからである。この講義では、腰痛の発症要因およびその重量効果について概説し、職場における腰痛発症原因の調査手法およびその対策について解説する。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし 第2クール 専門 1.5		
8	作業性腰痛の予防教育と治療 300-08 (01-02)	近藤 晃 弘	講義 産業医実務研修センター 50名	6/26 (金) 2/12 (金)	コマ数	厚生労働省は「職場における腰痛予防対策指針」を提唱しており、作業性腰痛予防は重要である。中でも製造業における腰痛は労働災害となるだけでなく、労働力・生産性の低下や個人の生涯に関わる問題であり対策が必要である。 某航空機部品製造業事業場における腰痛予防対策として、腰痛予防教育を実施している。その教育内容と結果、現状の課題について紹介する。また、実際に行っている腰痛予防体操を実施して頂き、身体機能の改善が動作に及ぼす影響を体感して頂く。 また、理学療法士の視点での評価と治療を紹介し、骨盤不良アライメントや腰痛の発生メカニズムについて説明し、運動器疾患の治療と考え方を共有する。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし 第2クール 専門 1.5		

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
9	作業管理の実務Ⅰ 300-09(01-02)	赤 築 秀一郎	講義 産業医実務研修センター 50名	7/16 (木) 2/18 (木)	コマ数	職業性ストレスとそれに起因する精神疾患や自殺は深刻な社会問題となっている。現在の労働安全衛生・産業保健にとり、職場におけるメンタルヘルス対策は最重要課題の一つである。ストレスチェックは2015年12月より義務化されたが、当事業場ではそれに先駆け2000年より実施し、職場ごとのメンタルヘルスの状況を把握し、メンタルヘルス悪化要因を抽出し問題点を改善していく活動を行っている。また、実際の精神疾患が発生した要因の分析を行ない、悪化要因への対策の一つとして産業医面談を導入した。その中で、早期発見・早期治療、さらには予防のため職場の作業や作業環境について改善指導を行っている。これら実際に行っている事例を挙げて、用いているツールとともに説明をする。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし 第2クール 専門 1.5		
10	作業管理の実務Ⅱ（作業管理活動 と職場巡視） 300-10(01-02)	山 田 琢 之	講義 産業医実務研修センター 50名	7/17 (金) 2/19 (金)	コマ数	作業管理とは、作業そのものと働く人々の作業態様について分析し、作業負担から生じる健康障害を予防する。そして、問題点の改善（作業時間、作業負担、作業手順、作業姿勢などを検討）が中心の作業管理に加え、第一次予防の快適で楽しく働くことができる職場づくりに寄与することが大切である。労働の場で引き起こされる健康障害や労働災害の根源を学問的に追求するためには職場を知らなくてはならない。作業管理活動を実践するために必ず行わなくてはならないのが「職場巡視」である。「機械—人間系」が「人間工学」といわれるが、「労働の場（職場）—人間系」が「産業保健人間工学」つまり「作業管理」である。労働災害が発生した場合、後日書類を見て検討することは容易だが、そこには現場の苦労や本当の危険は見えてこない。そこで私が経験した職場巡視の体験を報告する。職場巡視をすること、つまり作業管理活動・産業保健人間工学を実践することは、職場のやさしさを発見することでもある。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし 第2クール 専門 1.5		
11	情報機器作業に関する作業管理 300-11(01-02)	川 波 祥 子	講義 産業医実務研修センター 50名	8/ 4 (火) 3/ 2 (火)	コマ数	情報機器作業が健康に及ぼす影響には疲労の問題があり、眼精疲労や肩こり等を訴える作業者は多い。これらの症候を予防するためには作業方法、作業時間等の管理を行い、疲労が蓄積しないような対策を講じることが重要である。本講義では、ガイドラインで示される望ましい作業管理を解説し、具体例を提示することで、職場巡視や健康診断事後措置において産業医として適切な指導が行えることを目的とする。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし 第2クール 専門 1.5		
12	過重労働対策 300-12(01-02)	宮 崎 洋 介	講義 産業医実務研修センター 50名	7/20 (月) 2/24 (水)	コマ数	過重労働は長らく社会問題となっており、産業医も企業内で過重労働対策に関わることが多い。本講義では、社会背景や日本の労働状況を踏まえながら、過重労働による健康障害の発生機序や疫学、関係法令を概観し、産業医による過重労働対策について解説する。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし 第2クール 専門 1.5		

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
13	騒音障害防止のためのガイドラインと許容基準 300-13 (01-02)	井上 仁 郎	講義 産業医実務研修センター 50名	7/28 (火) 2/18 (木)	コマ数 1 医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 専門 1.5	騒音性難聴の予防のための騒音職場の健康管理の実態をふまえた作業環境測定・健康管理・労働衛生教育の方法、および、日本産業衛生学会の騒音の許容基準について解説する。 「騒音障害防止のためのガイドライン」制定時にはあまり想定されていなかった労働実態（高齢労働者の増加、音源が作業者に近い手持動力工具の普及、管理区分の異なる作業場を移動する作業、日内の騒音の大きな変動がある作業場）への対応や、労働衛生の新知見（欧米で実施の個人曝露測定への流れ、ガイドラインに組み入れられていない衝撃音の評価、雇入時の聴力からの変化を指標とするStandard Threshold Shift、事業場単位で聴力保護対策をマニュアル化するHearing Conservation Program（聴力保護プログラム））についても概説する。	
14	障害者のための作業管理 300-14 (01-02)	加藤 徳 明	参加型講義 1号館1401号室 20名	7/31 (金) 2/26 (金)	コマ数 1 医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 専門 1.5	外傷性脳損傷、脳卒中などの中途障害のために、リハビリテーション等の治療を行って職場復帰に至った症例に基づき、患者の障害評価や作業管理に関して講義を行う。 1) 障害者雇用に関する法制度および企業の雇用状況に関して述べる。 2) 脳卒中や外傷性脳損傷患者の身体障害（麻痺重症度、歩行、日常生活動作）、高次脳機能障害（記憶、注意機能、遂行機能）に関して症例を通して述べる。 3) 職場復帰の際に重要となる自動車運転再開に関して、一部演習形式を入れながら参加型の講義を行う。	
15	職場改善の実例 300-15 (01-02)	センター教員	学外実習 学外 20名	6/30 (火) 1/13 (水)	コマ数 3 医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 実地 4.5	職場をめぐる環境の変化の中で、新たに就業に伴う疲労やストレスの問題が生じている。一方、国民の意識は物質的な豊かさから心の豊かさに変化してきていて、職場における働きやすさが重視されるようになってきている。つまり、疲労やストレスを感じることが少ない快適な職場環境を形成していくことが、きわめて重要となっている。快適な職場環境を形成していくことは、労働者の有する能力の有効な発揮や、職場の活性化にも資するものと考えられる。当実習では企業における取り組みの実例について学外実習形式で学ぶ。	学内者のみ受講可
16	個人用保護具の管理 300-16 (01-02)	大藪 貴 子	講義 産業生態科学研究所 5255号室 50名	7/10 (金) 2/ 2 (火)	コマ数 1 医師会認定 単位区分 第1クール なし 第2クール 専門 1.5	防じんマスク防毒マスクなど呼吸用保護具、耳栓などの防音保護具、保護用眼鏡、保護手袋、安全靴などの個人用保護具に関して、選択に必要な種類や性能についての基礎知識を学び、実物の保護具を使用して正しい装着法を習得する。	

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
17	勤務様態と生体リズム 300-17(01-02)	藤木 通 弘	講義 産業医実務研修センター 50名	7/29 (水) 2/ 3 (水)	コマ数	深夜勤や交替勤務などに労働者が従事することによって、通常勤務と比較すると仕事の効率の低下やエラーの発生率の上昇などが見られるだけでなく、健康障害ももたらす。そこにはもちろん睡眠の不足の問題もあるが、生体リズムの乱れがこれらの現象を引き起こしていると考えられている。本講義では深夜勤や交替勤務の実態とそれに伴う問題について、紹介するとともに、なぜ、深夜勤や交代勤務に従事することによって生体リズムが乱れてしまうのかについて、概日時計によってコントロールされている生体リズムの生理学の知識を通じて理解できるようになることを目指す。さらに生体リズムの乱れによる問題を抱えている労働者に対してどのような助言・指導をすれば良いのかについて議論する。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 1.5		
18	呼吸用保護具の適正使用 300-18(01-02)	川 波 祥 子	講義 実習 産業医実務研修センター 20名	6/ 4 (木) 3/11 (木)	コマ数	労働現場における吸入暴露をする健康障害因子には、粉じんや有毒ガス、細菌・ウイルスなどがあり、これらによる健康障害防止策の最終的手段として呼吸用保護具の着用がある。しかしながら、その効果や限界、ならびに使用方法については、現場で指導にあたっている専門家でも、十分な知識を有していない場合がある。特に呼吸用保護具は使用前に各人がフィットテストを行って自分の顔に合うかを確認する必要があるにもかかわらず、実施されていない企業もまだまだ多い。そこで本講義実習では、自分の顔に合った呼吸用保護具の選択方法と、その適切な装着方法、そしてフィットの確認方法について学ぶこととする。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 実地 1.5		
19	高齢者の作業管理 300-19(01-02)	泉 博 之	講義 産業医実務研修センター 50名	6/24 (水) 3/ 3 (水)	コマ数	職場における労働者の高齢化は、高齢者人口割合の増加と定年の延長により、今後、更に深刻さを増すことが予想される。高齢者が安全かつ健康に働ける職場を提供するためには、加齢による心理的身体的特性の変化を理解し、作業管理を行う必要がある。本講義では、加齢による心理的身体的特性の変化について概説し、その特性の変化に合わせた職場改善の方法論について解説を行う。	
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 専門 1.5		
20	職場改善の実例の事後措置 300-20(01-02)	藤木 通 弘 センター教員	学内実習 産業医実務研修センター 20名	7/ 7 (火) 1/20 (水)	コマ数		
					1		
					医師会認定 単位区分		
					第1クール なし		
					第2クール 実地 1.5		